

提言書



令和3年度

北大阪商工会議所 青年部

はじめに

北大阪 YEG の未来提言委員会では、創立 40 周年を迎える節目の年までに提言書を策定、提出することを目標に、平成 30 年から「未来創造会議」という会議体を設立、単年度制に捉われず、継続性・連動性のある組織として、現在の「未来提言委員会」へと引き継いできました。地域経済の様々な問題や改善点、地域の将来ビジョンを見据え未来を創造してきた会議体から発展し、課題解決の始まりの一步として、この度、提言書をまとめることができました。

毎年、行ってきたアンケート調査、提言に繋がる例会や勉強会の開催を通じて、提言とはどんなものか、多くのメンバーに提言活動に興味を持ってもらうことから始まりました。また、日本 YEG の政策提言を学ぶことも大きな指針となりました。

提言のテーマとしては、企業の継続と発展を目的として、東京商工会議所を中心に注目されている「健康経営」への取り組みを考えました。健康に関しては、過去の提言テーマ策定の中にも健康都市推進の提言として調査をしており、北大阪 YEG でもいくつかの企業が健康経営に取り組んでいます。今後、経営者にとって非常に重要で取り組んでいく必要性の高い事柄と考えています。

メンバーにアンケートを取り、様々な課題がある中で、健康と医療問題を提言書としてまとめることにしました。北大阪商工会議所が提言する先の行政は、枚方市・寝屋川市・交野市の 3 市となり、それぞれの担当課にヒアリングをしたところ、医療費の問題は 3 市共に共通する項目であることがわかりました。各市の課題や財政はそれぞれですが、どの市も働き世代の健康増進には関心があり、更に取り組みを強化したいとニーズがあることを聞き出しました。

上記のことから我々が提言するテーマとして最適であると考え、提言書としてまとめたものを提出いたします。この提言により、3 市の医療費削減の一助となり、ひいては地域の企業の継続と発展に貢献できることを目標とします。この提言を始まりとし、今後は実のある活動に繋げ、更に毎年、提言できるような組織に発展していくよう邁進いたします。

令和 3 年度 未来提言委員会 委員長 朝長明日香

【提言内容】

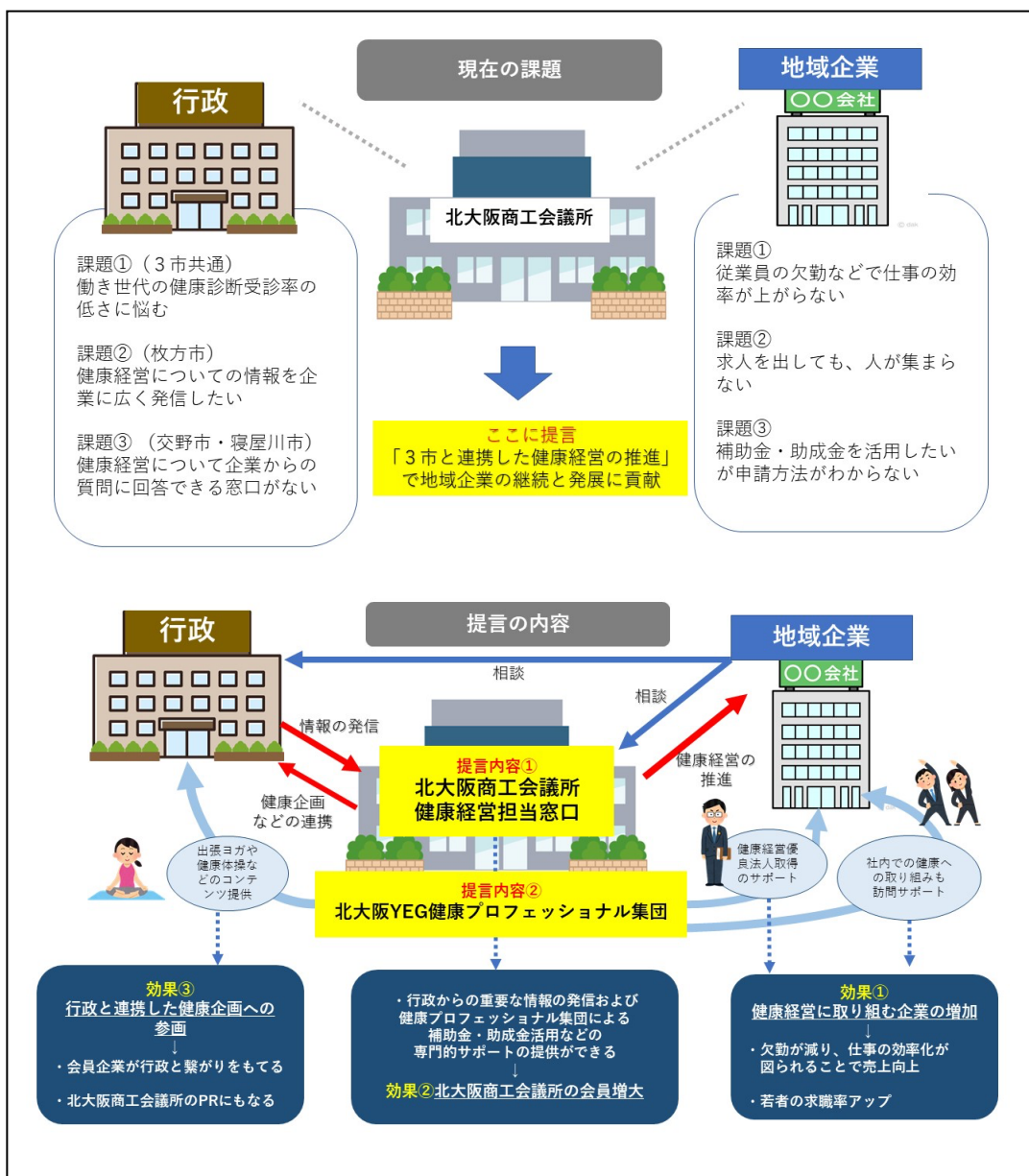
企業の継続・発展への貢献および行政の医療費増大抑制に資する企業の健康経営の推進を提言する。
 そのための手法としては

- ① 北大阪商工会議所に担当窓口を設置する。
- ② 健康経営を遂行するための健康プロフェッショナル集団を設立する。
- ③ 3市と連携した健康経営の推進を行う。

【目的】

- ・企業の継続、発展
- ・従業員の健康増進
- ・医療費削減への貢献

※健康プロフェッショナル集団イメージ図



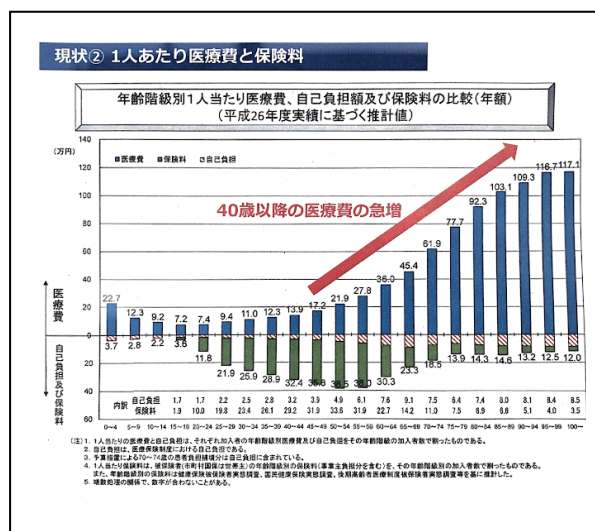
【提言の選定理由】

北大阪商工会議所が健康経営に取り組む理由としては、社会的情勢やヒアリングしたアンケート結果などから、今後、「健康経営」の必要性が高まることが考えられます。健康経営に取り組む企業は年々増えていますが、詳細な内容についてはまだまだ普及していない状況です。北大阪商工会議所が健康経営を推進する態勢を整えることで、北大阪地域の多くの企業が健康経営に取り組み、企業の発展と従業員の健康増進を行えるようになります。その結果、3市の課題である医療費増大の対策の一助になる役割を担えるのです。以上の理由から、北大阪商工会議所や行政が一体的になって、より一層これに取り組んでいただきたいため、今回の提言のテーマとさせていただきます。

【見込める効果】

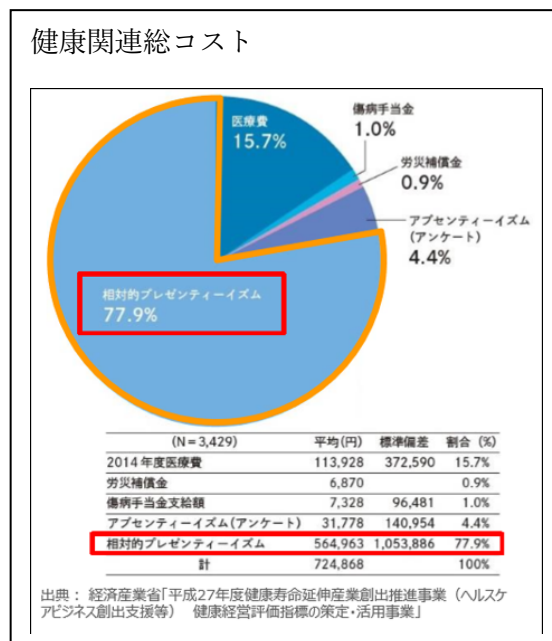
効果1：健康経営に取り組む企業の増加

近年、社会や経済構造、そして働く環境が変化してきたことで、働く人の体や心に大きな影響を及ぼすようになってきました。企業の経営改善対策として有給休暇の確保や長時間労働の削減に努めても、体調を崩して医療費を使っている人たちは40代で13.9～17.2%、50代で21.9～27.8%いるといわれています。（資料：1人あたり医療費と保険料）

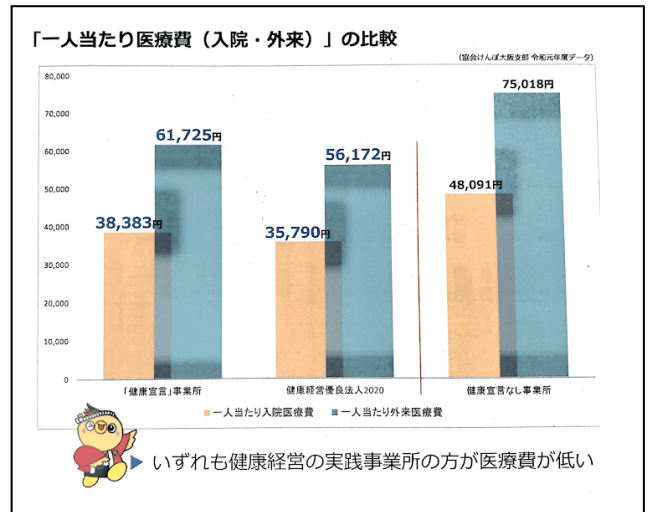


更に出勤しているのに体に不調があり、仕事の効率が上がらない、などの問題は医療費や病気休業にかかる費用よりも大きく77.9%とも言われており、見えない労働損失として日本でも研究が進められています。（資料：健康関連総コスト）

高齢者の医療費の問題には様々な取り組みが成されていますが、病気になってから対策をしても手遅れの場合が多いです。早急に取り組むべきは、今バリバリ働いている我々世代から健康を維持するための対策を取ることです。健康でいるということは、働いている時の医療費削減に繋がるだけではなく、定年後も医療費を使わないための重要な対策として、推進していく重要性が高いです。



そういった考えのもと、「健康経営」という考え方が近年取り入れられるようになりました。企業が社長のみならず、社員の健康を守るということで経営革新しようという取り組みです。病気ではないので、社員は出勤していますが、効率の悪い状態で働いているのと、効率よく働くのとでは、生産性が全く違います。そういった意味で企業が社員の健康に取り組むことは、将来的な経営革新（改善）に繋がると考えているのが「健康経営」の根本的な考えです。



その結果、企業には以下のようなメリットが考えられます。

- ① 病気にかかり、欠勤する人が減る

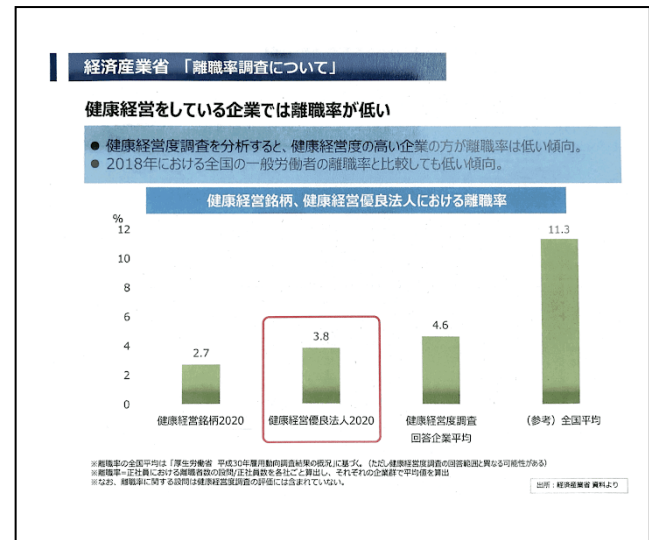
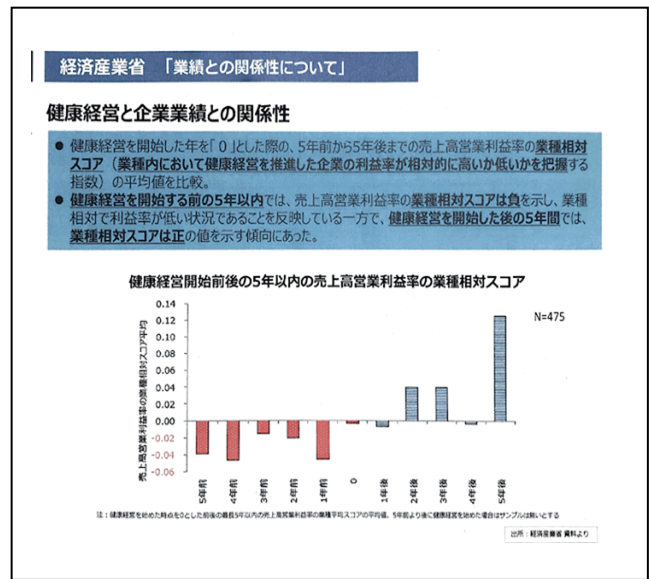
定期的な検診の受診を推奨することで、病気の早期発見、早期治療に繋がられます。

（働いている間に定期的に検診を受けていた人は、定年後も検診を受ける習慣をつけることができると言われています。）
- ② 腰痛などの症状が出ず、元気に働ける人が増える

従業員の働く環境を整えることで仕事の効率化が図れます。
- ③ 企業の売上向上

企業が従業員の健康や福祉に積極的に取り組むことで、従業員の仕事の効率化が図られ、その結果、売上の向上に繋がります。
- ④ 若者の求職率向上

現代の若者が企業を選ぶのは、働きやすい環境を重視しているというアンケート結果が出ています。大企業や給料の良い企業を選ぶ時代から、「従業員の健康や働き方に配慮している」企業が選ばれる時代になりました。また、福利厚生の充実も選ばれる理由の上位にきていることから、求職率が向上します。



効果2：北大阪商工会議所の会員増大

各市の聞き取りから3市共、働き世代の健康については関心を持っていますが、情報やサービスの提供に苦勞しているということを知っています。各市の重要な情報を所属企業に提供できるような橋渡し役を担うことで、行政と各企業を繋ぐ役目となります。そういった窓口があることで、北大阪商工会議所に所属する必要性を企業は感じることで、会員増大に繋がります。

例えば、枚方市は「健康経営優良法人認定」の取得サポートを行っていますが、まだ利用者は少なく、どのように広めていけば良いか悩んでおられました。寝屋川市も健康経営を行っている企業から質問を受けたが、どのように回答したらよいかわからないと聞きました。そういった企業と行政の窓口の部門を作ることで企業、行政共に協力して「健康な企業」を増やしていけたらと考えます。

その他、助成金制度の調査、取りまとめなども行政書士など専門の職種を通しておこなっていかれたらと考えています。

効果3：行政と連携した健康企画への参画

さらに今後の活動として、健康イベントなどの企画をしていくことで、地域住民にも貢献したいと考えています。行政と共に健康イベントを企画することで市民に安心してイベントに参加してもらうことができます。また、運営については、健康に関する取扱いのある北大阪商工会議所の企業が行うことで自らの仕事に繋がります。また、北大阪商工会議所ブランドイメージを「健康をサポートする企業」が多くいる企業家集団として位置づけることにも繋がると考えます。

健康企画は地域で定期的に行うことで、まだ商工会議所に加入していない企業にもPRすることができます。健康を取り扱っている企業が北大阪商工会議所に入るメリットとして行政との健康企画の繋がりを強みにできることは大きいと思います。

そのほかにも以下のような双方のメリットを考えました。

① 行政主催の健康イベントへの協力・出店など

行政メリット：出店企業を探しやすい

企業メリット：公的なイベントに出店できる、企業PRする機会が増える

② 行政からの講師・セミナー開催依頼

行政メリット：北大阪商工会議所のお墨付きの講師を見つけやすい

企業メリット：公的なセミナーでの講演実績ができる

③ 健康イベントの開催

行政メリット：企業の力を頼ることで多くの健康への啓発活動を市民に提供できる

企業メリット：健康イベントの開催に市の後援を打ち出せる。

【健康プロフェッショナル集団の構成】

- ・健康をサポートできる人
体のケア、心のケア
- ・健康食を提供できる人
- ・補助金・助成金のサポートができる人
- ・健康関係の商品を提供できる人
- ・講師ができる人（健康に関する講義）

【実施に関して（例）】

- ・プロフェッショナル集団から企業に合わせた健康の講演ができる人の派遣
- ・社内でできるストレッチなどの運動指導
- ・健康食などのお弁当の配給

などを企画して健康的な従業員を増やす取り組みをサポートする。



令和3年度 未来提言委員会 メンバー一同

担当副会長 柿丸 裕

常務理事 角 隆幸

委員長 朝長明日香

副委員長 北川弥生 山下直也 養老孝雄

委員 浅沼大介 足立智行 安積輝義 池田龍祐 大野貴愛 大東孝行 岡市栄次郎

小野雅嗣 小野田博之 片山直哉 木田剛 坂口貴啓 坂根美穂 坂本雅史

佐々木隆行 武居利記 辻本秀義 出口昌彦 萩原高明 橋田優樹 平本康憲

松本直高 溝渕康城 山上直輝 山本貴清 吉川学 若林豊